

リカレント教育に関するアンケート 結果から

荻野 剛史(東洋大学福祉社会デザイン学部社会福祉学科)

東洋大学社会福祉学会 第18回大会

リカレント教育

- リカレント教育とは？

- 「生涯学習〔教育〕」の中で提案されてきた用語です。欧米では、1960年代以降の生涯学習の主要課題は青年や成人に対する職業教育であったことから、職業生活を維持していく上で、学校での学び直し(学び直し)が必要であるとされ、職場と学校教育の往還のイメージとして提唱されたのがリカレント教育です。」

(<https://www.toyo.ac.jp/social/recurrent/>)

- 学校での学び直し(学び直し)。
- 職場と学校教育の往還のイメージとして提唱されたもの。
- ただし、関連概念間での揺らぎがある:「リカレント教育」「リスキリング」「生涯学習」

リカレント教育

- なぜいまリカレント教育なのか？

- ① 人生100 年時代の到来

- ② society5.0の到来による社会の変化(<https://www.toyo.ac.jp/social/recurrent/>)

- society5.0...「サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会」(第5期科学技術基本計画:内閣府)

- ③ 18歳人口の減少による教育市場の変化

- 時代・価値観の急激な変化＋ICTの急激な技術革新＋人生100年時代→リカレント教育の必要性。

- ① リカレント教育を受ける必要性。

- ② リカレント教育を提供する必要性。

リカレント教育

- リカレント教育の一例

- 大学など高等教育機関での実践

- 例①: 大学の公開講座。様々な大学が、「リカレント教育」と銘打って講座等を開設。
 - 例②: 東洋大学のイブニングコース(<https://www.toyo.ac.jp/nyushi/undergraduate/evening/>)
 - 例③: 履修証明制度(あるテーマに沿って構成された科目群[＝複数の科目]を履修する仕組み。
※科目等履修制度の場合は、1科目からの履修。

- インターネットを活用した実践

- 例: JMOOC (<https://www.jmooc.jp/>) 

- 何がリカレント教育なのか、未整理な状態？

リカレント教育に対するニーズ調査

- 調査対象者(実施経路)・実施方法
 - 東洋大学社会福祉学会会員(学会として実施)・郵送またはウェブで回答依頼。
 - 東洋大学校友会会員(校友会に依頼して実施)・ウェブで回答依頼。
- 実施時期
 - 2023年6月末～8月6日まで実施。
- 回答数
 - 東洋大学社会福祉学会実施:26名
 - 東洋大学校友会会員経由で実施:111名

ご協力に、改めてお礼申し上げます。

リカレント教育に対するニーズ調査 中間報告

●聴取内容・回答①

●年齢

- 校友会経由の調査: 20歳代:5、30歳代:18、40歳代:32、50歳代:31、60歳代:17、70歳代:8
- 学会で実施の調査: 20歳代:6、30歳代:2、40歳代:0、50歳代:8、60歳代:5、70歳代:6

●性別

- 業務経験(医療・福祉関係に関する業務、その他)・通算経験年数
- 過去5年間で従事或いは活動された組織形態
- 学び続けることが重要さ・その理由
- 今後、社会福祉(ソーシャルワーク)に関して学ぶとした場合、希望するテーマ
- 学習にあたり重要な事項(時間帯、受講方法、期間、受講料、付加価値...)

リカレント教育に対するニーズ調査

中間報告

●結果②

●学び続けることの重要性(★～★★★★★★)

	★	★★	★★★	★★★★	★★★★★
学会実施 : 計 (%)	1 (3.85%)	0 (0%)	2 (7.7%)	4 (15.39%)	19 (73.08%)
校友会 : 計 (%)	0 (0%)	1 (0.91%)	5 (4.51%)	19 (17.12%)	86 (77.48%)

リカレント教育に対するニーズ調査

中間報告

●結果③

●★★★★以上とした理由

	自身が進化 できる	周囲の期待 に応えられる	キャリアアップ	収入増	仕事に誇り を持てる	豊かな人生 になる	その他
学 会	23 (33. 83%)	8 (11. 77%)	10 (14. 71%)	2 (2. 95%)	11 (16. 18%)	10 (14. 71%)	4 (5. 89%)
校 友 会	80 (25. 81%)	43 (13. 88%)	63 (20. 33%)	24 (7. 75%)	49 (15. 81%)	51 (16. 46%)	---

リカレント教育に対するニーズ調査

中間報告

●結果④ー1

●今後東洋大学で学ぶとした場合、関心ある学習テーマ

	介護技術	相談援助技術	交渉・コミュニケーション スキル	プロジェクト マネジメント スキル	経営・人事・ 労務管理	社会資源開発
学会	5 (4.59%)	6 (5.51%)	7 (6.43%)	11 (10.1%)	12 (11.01%)	17 (15.6%)
校友会	12 (2.95%)	40 (9.81%)	44 (10.79%)	47 (11.52%)	45 (11.03%)	46 (11.28%)

リカレント教育に対するニーズ調査

中間報告

●結果④ー2

●今後東洋大学で学ぶとした場合、関心ある学習テーマ(つづき)

	顧客獲得	資金獲得	ICT活用	福祉機器・ 用具	制度・政策	福祉原論・ 哲学	その他
学会	5 (4. 59%)	7 (6. 43%)	10 (9. 18%)	3 (2. 76%)	13 (11. 93%)	8 (7. 34%)	5 (4. 59%)
校友会	0 (0%)	23 (5. 64%)	38 (9. 32%)	21 (5. 15%)	54 (13. 24%)	38 (9. 32%)	---

リカレント教育に対するニーズ調査

中間報告

●結果⑤

●学習するにあたり重要視する項目

	時間帯・曜日	受講方法 (対面ほか)	回数・期間	受講料	付加価値 (受講証明等)	評価、満足度
学会	21 (27. 28%)	18 (23. 38%)	11 (14. 29%)	11 (14. 29%)	11 (14. 29%)	5 (6. 5%)
校友会	87 (25%)	77 (22. 13%)	58 (16. 67%)	74 (21. 27%)	35 (10. 06%)	17 (4. 89%)

リカレント教育に対するニーズ調査

中間報告

●結果⑥

●学習する曜日・時間帯

	平日20時-	土日20時-	平日18時-	土日18時-	土日午前	土日午後	その他
学会	7 (16. 28%)	2 (4. 66%)	10 (23. 26%)	4 (9. 31%)	6 (13. 96%)	9 (20. 94%)	5 (11. 63%)
校友会	41 (21. 14%)	11 (5. 68%)	30 (15. 47%)	13 (6. 71%)	51 (26. 29%)	48 (24. 75%)	---

リカレント教育に対するニーズ調査

中間報告

●結果⑦

●学習方法

	オンラインのみ	オンラインとオンデマンドの併用	対面のみ (通学前提)	対面とオンライン 或いはオンデマンド	空白・無回答
学会	1 (3.85%)	2 (7.7%)	6 (23.08%)	17 (65.39%)	0 (0%)
校友会	9 (8.11%)	30 (27.03%)	7 (6.31%)	55 (49.55%)	10 (9.01%)

リカレント教育に対するニーズ調査

中間報告

●結果⑧

●学習期間

	修得できる迄	120H程度	40-60H程度	30H以下	その他	空白・無回答
学会	9 (37.5%)	2 (8.34%)	10 (41.67%)	2 (8.34%)	1 (4.17%)	---
校友会	26 (23.43%)	7 (6.31%)	42 (37.84%)	22 (19.82%)	6 (5.41%)	8 (7.21%)

リカレント教育に対するニーズ調査

中間報告

●特徴

- 「学び続けることの重要性」から、リカレント教育に対する一定のニーズはある。
- 「★★★★以上とした理由」から、人として・職業人としての成長、収入増などが背景。
- 「関心ある学習テーマ」から、比較的、「交渉・コミュニケーションスキル」「プロジェクトマネジメントスキル」「経営・人事・労務管理」「社会資源開発」「ICT活用」「制度・政策」といった内容に関するニーズが高めと思われる(＝学部教育で手薄な部分)。
- 「学習するにあたり重要視する項目」から、「時間帯・曜日」「受講方法」「受講料」を重視する傾向。
- 「学習する曜日・時間帯」から、夜間帯や土日での学習ニーズが高い。
- 「学習方法」から、「対面とオンライン或いはオンデマンド」のニーズが高い。
- 「学習期間」について、中程度の期間(40-60H)が多い。

リカレント教育に対するニーズ調査 中間報告

- 特徴を踏まえたリカレント教育実践の方途
 - 教育内容は、比較的実務に近い内容。
 - 実施時間帯は、夜間・休日。
 - 実施機関は、半期(1学期)程度。
 - 実施方法は、対面＋インターネット活用。